



2022年8月1日発行 (毎月1日・1回発行) 1988年1月27日第3種郵便物認可 定価50円 発行/公益財団法人横浜YMCA 広報センター 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 Tel 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS



社会課題を共に担うパートナーと連携強化し持続可能な社会を目指す

横浜YMCAが取り組んでいる創立150周年(2034年)に向けた、将来計画「VISION2034」の取り組みを紹介しています。2034年にどのような社会になっていきたいか、その実現のための具体的な4つの領域「子育て育ち」「生活のクオリティの向上」「ユースエンパワーメント」「社会に貢献」を掲げ取り組んでいます。今号では「社会に貢献、とくに社会課題を共に担うパートナー」との連携強化について考えていきたいと思います。

横浜YMCAは、これまで社会の変化を捉えながら、それぞれの時代で起こる社会課題に向き合い、課題解決のために多くの人とともに取り組んできました。

しかし、私たちの使命に示された平和な社会を創り出すためには、まだ達成出来ていない課題があることに気づかされます。

そのような未達成の課題を整理し、さらに「横浜YMCA」私たちの使命」を具現化していくために、横浜YMCA創立150周年を迎える2034年を見据え、横浜YMCAの将来計画として「VISION2034」を策定し取り組んでいます。

「VISION2034」では、「個人」が集まって成り立つ「地域社会」の課題は、



▲地域の企業とともに関内地域の清掃を行った (主催 NPO法人美しい港町横浜をつくる会 後列右 横浜YMCAからの主な参加者)

【VISION2034 創立150周年に向けた将来計画】

横浜YMCAでは、「横浜YMCA—私たちの使命」に基づき、社会の課題解決のための活動に取り組んでいます。横浜YMCAが創立150周年を迎える2034年に向け、「VISION2034」を策定し2021年4月から取り組みを展開しています。公正で平和な社会を創るため担い手を育み、社会に貢献し、互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る働きを推進します。詳細はQRコードまたはURL <https://bit.ly/3NxQ250>にてご覧ください。



「自分のために生きる」という価値観から、人や自然のいのちが危機に瀕している時に「力になりたい」と思う「他者とともに生きる」という価値観が生まれることで、基本的な解決の糸口となり解決につながります。ボランティアとしての活動とともに、これまで以上に、より柔軟な対応力と発想力が求められる時代を迎えています。横浜YMCAでは、「社会に貢献を」「VISION2034」のテーマの一つとして共に担うパートナーと連携強化していくことを考えています。地域の企業や団体、学校などと連携し、子どもたちの豊かな成長を支え、子育て育ちのサポート、成人・シニアの健康づくりの機会と環境の充実、一人ひとりのライフステージを地域で支え合う取り組み、ユース(YMCA)では35歳までをユースとしていすの能力を最大限に発揮するためのユースの育成、ユースの主體的・積極的な活動をサポートする環境の充実、持続可能な社会と地域共生社会への理解と取り組みなどを、地域の企業や団体、学校などと連携して取り組んでいきます。



VISION2034 FOR SOCIAL RESPONSIBILITY 自然の生命と人間の生命が大切にされる。また協力し合い、支え合いながら、人と社会と地球との調和のとれた持続可能な社会を実現するために

企業と連携し多様な環境にあっても公平に学ぶ機会を提供



横浜YMCAでは、障がい児やユースを対象としたプロジェクトなどをSC Johnsonのサポートにより実施しています。また、多様な環境に身を置く青少年にIT・プログラミングを学ぶ機会としてアマゾンジャパン合同会社とライフステック株式会社、YMCAが協力しプログラミング体験教室を行いました。子どもたちやユースがそれぞれに関心のあることを学び、一人ひとりの可能性を広げる機会につながるため企業とのパートナーシップのもと進めています。



毎月第1水曜日に「こども食堂」フードパントリーとして開催



毎月第1水曜日に横浜中央YMCA 1階にて「こども食堂」(横浜ロータリークラブ主催 鬼嶋一司会長)を開催しています。コロナ禍のため地域の企業から寄せられた食材品を無料で配布する「フードパントリー」として行っています。昨年8月からスタートし、米や缶詰、菓子、飲料などを1セットとして100セットを提供しています。運営には、横浜ロータリークラブ、聖光学院インターアクトクラブ、横浜YMCAが担っています。



働き方の多様化などキャリア形成への支援行



横浜YMCAでは、市内大学のキャリア教育としてのキャリアセミナーや業界研究などに協力しキャリア形成の支援を行っています。厚生労働省などによると、職業生活の長期化や働き方の多様化、技術革新や就業構造の変化等に対応して若者の雇用は、フリーター・ニート数の高止まり、若年労働者の早期離職などの課題があります。横浜YMCAは学校から社会・職業への円滑な移行につながるキャリア教育を支援し、未来の社会を担う若者の育成に取り組んでいます。



ワイズメンズクラブと各YMCAが協働し活動を展開



横浜YMCAをサポートするワイズメンズクラブは現在、横浜、鎌倉、横浜つづき、厚木、金沢八景、横浜つづき、横浜つるみ、富士、富士宮の9つのクラブがあります。各YMCAと協働し、日本語スピーチコンテストや室内サッカー、地域清掃などの活動のサポートをいただいています。国際・地域協力募金のために毎年各YMCAで11月を中心に開催されるバザーでは、事前準備や当日の運営、街頭募金の呼び掛けなど各YMCAと協働し取り組んでいます。



ホドス

8月 は死者の追悼期だ。亡き人の生き方をしのぶ行事も多い。コロナ禍のため世を去る人も多かった。一年のうち約半年ちかく過ぎた5月、亡き人が「美しい月」と称した5月半ばに小塩節さんが召された。生前フェリス女学院理事長を務められ、夫人が教授でもあったため、ご夫妻とも県民に知られた。ご家庭は東京都杉並区のごばえ幼稚園に近く、横浜通勤のため大変苦労された▼奉職の大学でドイツ文学を教える傍ら、YMCAやYWCA、教会での説話のため牧師の代わりに招かれて説教することも多かった。ご両親は牧師で、幼稚園の園長だったため、伝道のために尽くされた。YMCAとYWCAの仕事も担当され敬慕する会員も少なくなかった▼東京神学大学で学生が宗教教育の時に高崎毅教授に「理想的な牧師さんはいら」と質問した時、「小塩先生であろう」と答えた。その長男が節氏である。専攻は、ドイツ文学で、若い人びとは小塩訳書でゲーテ、マン、ヘッセを読んだ。政府に招かれてケルンの日本文化会館館長時代に「男はつらいよ」を上映してドイツ人の喝采を受けた離れ業が出来る手腕の持ち主でもあった。寅さんがウィーンに旅してドイツ語系の人びとと交わる奇行は映画館ににぎわせた▼戦後の日本の神学界はバルト一色であった。壮大な「教会学」の中からバルトのモーツァルト論を抜き出して一書にまとめて出版された時、日本の洋楽界にも波紋を与えたことも忘れられない。少年期に家族で宮澤賢治を読んだことも聞いた。(愛)

YMCA NETWORK NEWS

Topics

体験を平和につなぐ vol.13 いのちつないだ工場の配置換え

1945年、15歳・中学3~4年生。連合軍の空襲が激化の一途をたどる中、私のいた平塚工場も直撃弾による空襲を受ける危険が迫っているということから、2月の初めに、大船郊外にあった同工廠深沢工場へ急ぎ配置換えとなりました。深沢工場は、すべて横穴式の壕の中に設置され、焼夷弾からの脅威・被害は免れることができました。(平塚工場は、深沢工場に移り数日後に空襲で壊滅しました)。深沢では、大船駅で降りた後、江ノ島道路(当時、京急電鉄が開発・管理した日本で初めての自動車専用有料道路・当時、閉鎖中)を工場まで駆け足で15分、工場に着く頃はじっとりと汗をかきました。仕事は、「30尺旋盤」と呼ばれていた長尺の工作機械を担当しました。仕事の内容は、「回天魚雷」(火薬を装填した魚雷に人間が乗り、敵の艦船に体当たりして自爆する兵器・「天を回らし戦局を逆転させる」意)のプロペラ部分の「止めネジ」の作製でした。

1945年5月29日は、横浜市民にとって忘れられない横浜大空襲の日となりました。当日は、B-29爆撃機500機以上・P-51戦闘機100機以上が早朝から正午に掛け、横浜市内中心部(山手・山下公園地区を除く)を波状空襲により、死者8千人から1万人と言われました。

(横浜とつかフイズメンズクラブ 加藤利榮)

※戦争体験をお伝えいただける方は編集部(本部事務局広報)へご連絡くださるようお願いいたします。

ポジティブネットをひろげよう ~今月のよくなる一歩~

ちきゅうかん
地球を感じよう。
おもあそ
思いっきり遊ぼう!
(Respect 尊敬心)

藤沢 アンネのバラ 一緒に世話を

藤沢YMCAの会館前の花壇では、5月に「アンネのバラ」が咲き、会員や地域の方の目を惹きつけてくれた。藤沢YMCAでは、横浜YMCA創立125周年の際に「戦争のない平和な世界に」というアンネの願いとともにバラを育てている。アンネは、『アンネの日記』の著者であるユダヤ人少女アンネ・フランクにちなんでアンネのバラと名付けられた。日ごろのアンネのバラの手入れ



は、日本YMCA同盟のF.C.S.C (Foreign Community Supporting Committee) 基金のサポートを受け、発達・教育支援の子もたちや青年たちがクラスの一部の時間やボランティアとして花壇の草取りなどを行っている。8月には、夏の剪定を23日(火)、25日(木)に行う予定で一緒に世話を「アンネのバラ育て隊!」(ボランティア)を募集している。参加費1千円。申込みは藤沢YMCAへ(詳細は4画)。

今夏もいのちを守る取り組み展開 ウォーターセーフティ キャンペーン 6,918人が着衣泳などを体験



小学校での着衣泳指導



ウォーターセーフティキャンペーン



▲(左上)着衣泳体験、(右)小学校教員対象にCPR(心肺蘇生法)講習、(左下)溺れている人にペットボトルを投げてみる

また、YMCAの水泳クラスに参加している子どもたち、延べ4003人が、着衣泳の体験をプールで行い、「洋服を着ていると手が上がらなくて泳げない」「ペットボトルは溺れている人がとりやすい所に投げた」などの感想を述べた。

Youth Conference ウクライナを知ろうをユースが開催



▲ユース同士の活発なディスカッションが繰り広げられた

最初に、ウクライナから日本へ来日し、横浜YMCAの専門学校で日本語を学

「Youth Conference」は、会の課題を共に考えようと、ユースによって企画・運営されている。2021年から活動に取り組み、今回は4回目の実施となった。

6月から8月に横浜YMCAでは、海や川で水に親しむシーズンに備え、水の事故から尊いいのちを守るべく「ウォーターセーフティキャンペーン」を神奈川県、神奈川県教育委員会、各市教育委員会などの後援により展開している。警察庁の発表によると昨年全国で7月から8月(夏期)の水難事故は451件、水難者数は565人、うち死者・行方不明者は212人と報告された。過去5年間で最少となったが、コロナ禍による自粛生活の影響もあると見られている。

6月19日に横浜YMCAでは、全国のYMCAとともに「自分のいのちを守り、みんなのいのちを大切に」をテーマに、「Water Safety Day」として25mチャレンジ・着衣泳を行い7Y

横浜YMCAでは、創立150周年(2034年)に向けた将来計画においてユースエンパワメントを掲げている。7月2日には、Youth Conference「ウクライナを知ろう」をハイブリッド(会場+オンライン)にて開催し、10代から20代の平和に関心のあるユース46人(会場19人、オンライン27人)が参加した。

紹介された。また、横浜北YMCAのプールで行った認定こども園高木学園附属幼稚園の対外指導はテレビ神奈川に

ぶアリナ・ホドスさんからウクライナの人びとの生活や文化などの話があった。その後、会場で参加したユースは、グループディスカッションを行い、平和について語り合った。参加者からは「ウクライナの人びとの心情を知り、自分に出ることを考えるきっかけになった」と語り、平和を願うウクライナの国の理解を深める機会となった。

♪子育てランド♪ 適切に冷房を使いましょう

暑い夏の到来ですが8月はどうにお過ごしですか。健康に過ごせていますか。今月は熱中症を予防しながら健康に過ごすための冷房の使用方法についてお伝えします。

日中は窓から日差しが入ると、冷房の設定温度よりも室温が高くなってしまいます。室内に温度計を設置して、室温が25度から26度くらいを保てるように冷房を調整しましょう。

カーテンを閉めることも効果的です。就寝時も、風が体に直接当たらないように気をつければ、冷

房はつけたままで構いません。冷房と一緒に扇風機を活用して室内の空気を循環させると、冷えすぎってしまうことを防ぐことができます。温度や風の当たり具合により、快適に睡眠をとることが出来、健康に暑い日中も過ごすことが出来ます。

熱中症予防のためにも、暑さは我慢しすぎずに、適切に冷房を活用して暑い夏を乗り切りましょう。

(YMCAマナ保育園 主任 深田博久)

横浜 平和考えるひと時 折り鶴プロジェクト



折り鶴の制作を呼びかけている。折り鶴は、それぞれの施設において33羽から34羽で1本にまとめ国際・地域事業宛に8月31日(水)必着にてとりまとめる。最終的に集まった鶴を千羽鶴にしてまとめたものを広島YMCAを通して「原爆の子の像」に献納する。昨年は2万8千を超えて折り鶴が集まった。

横浜YMCAでは平和について考える時をもとに、7月から8月にかけて「折り鶴プロジェクト」を行っている。

各YMCAや保育園、高齢者施設では、会員一人ひとりに思いを込め

横浜ユーラシア文化館からウクライナ支援に107万を超える寄附金

横浜YMCAでは、8月31日まで「ウクライナ支援募金」を呼びかけている。この募金の使途は、一つは日本に避難しているウクライナの人びとの日本国内での生活の支



▲上山和雄横浜ユーラシア文化館館長(左)から目録を受け取る佐竹博横浜YMCA総主事

援、教育機会の提供、コミュニティづくりの支援(「オール横浜支援パッケージ」による支援も含む)と、もう一つは現地YMCAが本国及びウクライナから近隣諸国で避難生活をしている人びとの支援、日本への避難を希望するウクライナの方とご家族等の呼び寄せを希望される方に、出国から来日と来日後のサポートとケアを行うために用いられる。

6月24日には、横浜ユーラシア文化館から横浜YMCAのウクライナ支援(オール横浜支援パッケージ含む)のため107万5950円の寄附があり、上山和雄横浜ユーラシア文化館館長から

ひとかき ホーム・ハウス

総主事 佐竹 博

「homemaker」という英単語が性別の考え方や、性別役割分業意識の変化に基づき時代とともに「housewife」という単語から置き換わっているという。日本語では「主夫」という表現もみられるようになってきたが、性別の特定は残ったままだ。

日本キリスト教社会福祉協会がオンラインで開催された。その中の奥田知志さん(認定NPO法人抱樸理事長・東八幡キリスト教会牧師)の講演を受けて、私は、「ハウスレス」「ホームレス」について考えることが増えた。

「house」は「home」は似たように持つ意味や、一緒に用いる単語などから違う意味合いを示すことがある。一般的

あり少数派の際になど「アウエー感」などと表現することも見聞きする。どうやら、精神的な居場所のような所に「ホーム」は用いられるようだ。とすれば、

物理的な住まいを持たない人は「ハウスレス」であって、「ホームレス」ではないし、ハウスレスをホームレスにしない取り組みが必要だ。自らの属するコミュニティの存在、受け入れてくれる仲間たちとの交流、社会との接点を持つ「ホーム」がある人は幸いだ。

ハウス提供は、今の横浜YMCAの活動にはないが、ホームの提供や、その支援はできる。WHO(世界保健機構)は身体的・精神的・社会的な健康を提唱している。社会的なつながりを構築し、支えあ

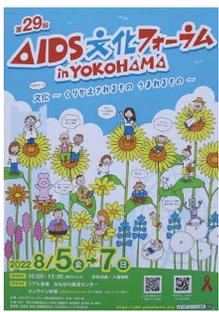
うポジティブネットのある豊かな社会を創ることは、「ホーム」づくりであり、社会的健康を促進することである。

FLASH NEWS

横浜YMCAは7月2日に開催された「SDGsよこはまCITY夏」(主催よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会)に2つの企画にて参加した。国際・地域事業は「多文化共生とは～すまいと生活の視点から」をテーマに、パイアンさん(NPO法人かながわ外国人すまサポートセンター理事長)が、地域における外国につながる人びとのすまいと生活の視点から、多文化共生社会の実現に向けて話し共に考える機会となった。横浜AIDS市民活動センター(運営受託)は活動紹介やHIV/エイズの現状を報告し普及啓発に向けた取り組みを紹介した。横浜YMCA国際・地域事業では、「ウクライナ支援募金」のためのひまわり募金を行った。これは、賛助会企業として横浜YMCAを支えてくださっている株式会社大和生花店の協力のもと、横浜中央YMCAにてウクライナの国花であるひまわりを販売し、その一部を募金として用いる。



▲参加者にモタンカ人形づくりを教えるアリナ・ホドスさん(中央)



ワイズ コーナー ひたすらきらめいて! 厚木ワイズメンズクラブ

コロナ禍の影響で、いまだ活動の拠点である厚木YMCAの使用は制限がかかっています。ワイズメンズクラブの活動の基本はYMCAの支援はゆるぎないものであります。活動をひたすらきらめかすべく、クラブの目的をYMCAのミッションパートナーとして知恵と創意工夫しながら個性と自主性を重んじたいと思います。卓話中心の例会は、会場を厚木市アミューや近隣ビルを借りてハイブリッド形式で開催しています。8月の例会は厚木市セーフコミュニティ総合指導員倉持隆雄氏による『歴史は語る! 「大地震と富士山の噴火」』を予定しています。きらめいて! ひたすらきらめく活動をしていきます。(厚木ワイズメンズクラブ会長 佐藤節子)

市内企業と横浜市に寄せられる。7月には、物理的な住まいを持たない人は「ハウスレス」であって、「ホームレス」ではないし、ハウスレスをホームレスにしない取り組みが必要だ。自らの属するコミュニティの存在、受け入れてくれる仲間たちとの交流、社会との接点を持つ「ホーム」がある人は幸いだ。

「文化」の問題としてとらえることに重きを置いてきた。社会が大きく変化する中で、「文化」もさまざまに変化している。今年HIV/AIDSを はじめとする感染症を取り巻く「文化」に着目し、広く社会に向けて発信するフォーラムとしていく。5日午前10時から行われる開会式・オープニングでは、「HIV/AIDSと文化」文化とは何か?」をテーマにトークセッションが行われる。横浜YMCAからは、オンラインで6日に「今だからこそ知ろうHIV/AIDS」

横浜YMCA佐竹博総主事に目録が手渡された。この寄附金は、横浜ユーラシア文化館が4月末から5月末までに開催したウクライナ支援緊急企画写真展「姉妹都市オデーサに思いを」の4千748人の観覧料と、期間中に設置していた募金箱に寄せられた募金を合わせたもの。佐竹博総主事は「皆さまの支援の思いを大切に用います」と話した。

今年で29回目を迎える「AIDS文化フォーラム in 横浜」(同組織委員会主催/事務局横浜YMCA)は、8月5日(金)から7日(日)にリアル会場(かながわ県民センター)、オンライン会場(Zoomb & YouTubeライブ配信)にて開催する。今年「文化」をテーマにするもの、うまれるものをテーマに開催する。フォーラム開催当初から、HIV/AIDS

「文化」の問題としてとらえることに重きを置いてきた。社会が大きく変化する中で、「文化」もさまざまに変化している。今年HIV/AIDSを はじめとする感染症を取り巻く「文化」に着目し、広く社会に向けて発信するフォーラムとしていく。5日午前10時から行われる開会式・オープニングでは、「HIV/AIDSと文化」文化とは何か?」をテーマにトークセッションが行われる。横浜YMCAからは、オンラインで6日に「今だからこそ知ろうHIV/AIDS」

「横浜中央YMCA」、「知らう・話そう・性のモヤモヤセシル」が取り組む活動」横浜AIDS市民活動センター(横浜YMCA運営受託)、7日に「タイにおける性教育」子どもの権利の視点から(国際・地域事業)などのセッションを行う。

た募金1千134万7752円を横浜から横浜YMCAが受け取り「オール横浜支援パッケージ」の一時金・生活費に充てられる。またパシフィック横浜に開設しているウクライナ人の交流拠点「ウクライナ・カフェ」では、7月9日にウクライナからのアリナ・ホドスさんが「モタンカ人形づくり」(横浜

「文化」を医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く「文化」の問題としてとらえることに重きを置いてきた。社会が大きく変化する中で、「文化」もさまざまに変化している。今年HIV/AIDSを はじめとする感染症を取り巻く「文化」に着目し、広く社会に向けて発信するフォーラムとしていく。5日午前10時から行われる開会式・オープニングでは、「HIV/AIDSと文化」文化とは何か?」をテーマにトークセッションが行われる。横浜YMCAからは、オンラインで6日に「今だからこそ知ろうHIV/AIDS」

「文化」の問題としてとらえることに重きを置いてきた。社会が大きく変化する中で、「文化」もさまざまに変化している。今年HIV/AIDSを はじめとする感染症を取り巻く「文化」に着目し、広く社会に向けて発信するフォーラムとしていく。5日午前10時から行われる開会式・オープニングでは、「HIV/AIDSと文化」文化とは何か?」をテーマにトークセッションが行われる。横浜YMCAからは、オンラインで6日に「今だからこそ知ろうHIV/AIDS」

常議員会議長に 鈴木茂氏選任 6月16日に開催された理事・常議員会において、常議員会議長の改選が行われ、議長に鈴木茂氏が、副議長に松橋秀之氏が選出された。常議員会議長は、会則第12条に基づいて毎年改選されているもので、鈴木氏、松橋氏は共に3期目の就任となる。

詳細・申し込みはは QRコードまたはHPからお申込みください。(詳細4面)



横浜中央YMCA ☎045(662)3721
 横浜北YMCA ☎045(433)4321
 藤沢YMCA ☎0466(26)1151
 横須賀YMCA ☎046(854)5126
 川崎YMCA ☎044(932)2031
 厚木YMCA ☎046(244)4181
 鎌倉YMCA ☎0467(24)7859
 YMCA山手台センター ☎045(813)1022
 湘南とつかYMCA ☎045(864)4768
 金沢八景YMCA ☎045(782)3003
 YMCA東とつかセンター ☎045(392)3747
 大和YMCAライフサポートセンター ☎046(264)3192

横浜YMCAワークサポートセンター・アンジュ ☎045(867)0090
 横浜YMCAワークサポートセンター・レザン ☎045(860)5252
 YMCAあつぎ保育園ホサナ ☎046(222)8619
 YMCA山手台保育園アルク ☎045(813)1022
 YMCAとつか保育園 ☎045(870)3663

YMCA マナ保育園 ☎045(790)3588
 YMCAとつか乳児保育園 ☎045(870)3235
 YMCAつるみ保育園 ☎045(500)5030
 YMCAかわさき保育園 ☎044(520)1825
 YMCAいずみ保育園 ☎045(800)3010

YMCA東とつか保育園 ☎045(820)5588
 YMCA東かながわ保育園 ☎045(440)3763
 YMCAたかつ保育園 ☎044(281)7833
 金沢八景YMCA保育園 ☎045(353)5130
 YMCAオベリン保育園 ☎042(707)9974
 大和YMCA保育園 ☎046(214)3192
 富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ ☎0544(54)1151
 三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ ☎046(888)2100
 鶴見中央YMCA ☎045(508)7800
 YMCAライフサポートセンター・鶴見 ☎045(506)0131
 本部事務局 ☎045(662)3721

INFORMATION

横浜YMCA



●新型コロナウイルスの感染・拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

キリスト教理解..

■平和のための合同祈禱会

日時 8月6日(土) 午後2時~3時30分
 場所 日本キリスト教団藤沢教会+オンライン
 司式 黒田直人牧師
 説教 満山リベカ牧師
 (日本ナザレン教団藤沢教会)
 主催 藤沢市内キリスト教連絡会
 問合せ 藤沢YMCA ☎0466(26)1151

イベント

■第29回 AIDS文化フォーラムin横浜

日時 8月5日(金)~7日(日) 午前10時~午後5時30分(最終日午後4時終了)
 会場 かながわ県民センター・オンライン (Zoom & YouTubeライブ配信)
 テーマ 文化〜くりかえされるものうまれるもの〜
 内容 講演・ワークショップ・展示など
 参加費 無料
 主催 AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会

共催 神奈川県
 問合せ AIDS文化フォーラムin横浜事務局 (横浜YMCA内) ☎045(662)3721

詳細は<https://bit.ly/3aV8whP> またはQRコードをご覧ください。

■つながらCafé

認知症の方とご家族がゆっくりとくつろげる場所です。
 日時 8月20日(土) 午後2時~4時
 会場 横浜中央YMCA 8階ラウンジ
 内容 お楽しみ企画は「夏祭り」
 参加費 ヨーヨー・当てくじ各200円等
 対象 認知症の方とご家族
 問合せ 横浜YMCA学院専門学校 ☎045(641)5785
 ※飲食の提供はありません。

■アンネのバラ育て隊2022

アンネのバラの手入れをしながら、バラの育て方について学びます。
 日時 8月23日(火)または25日(木) 午前10時~11時30分
 会場 藤沢YMCA
 内容 土のおはなし・植え替え・剪定
 参加費 1,000円 (横浜YMCA国際・地域協力募金となります)
 問合せ 藤沢YMCA ☎0466(26)1151

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会

日時 8月12日(金) 午後2時~3時・30日(火) 午前10時15分~11時15分
 会場 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
 対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
 問合せ 横浜子育てサポートシステム中区支部事務局 ☎045(663)0676

■横浜子育てサポートシステム入会説明会

日時 8月18日(木) 午後1時30分~2時30分・23日(火) 午前10時30分~11時30分
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
 問合せ 横浜子育てサポートシステム金沢区支部事務局 ☎045(352)7110

■プレママDay

日時 9月6日(火) 午前10時30分~11時30分
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 対象 第1子妊娠中の方
 内容 タッチケア体験とおしゃべりタイム
 申込み 金沢区地域子育て支援拠点とことこ ☎045(780)3205

学校説明会

■横浜YMCA学院専門学校

日時 8月27日(土) 午後1時~3時
 内容 国際情報ビジネス科学学校説明会
 申込み ☎045(661)0080
 詳細は<https://bit.ly/3tAXhBP> またはQRコードをご覧ください。

■YMCA健康福祉専門学校

日時 8月6日(土)・9日(火)・10日(水) 23日(火)・26日(金)・30日(火) 午前9時30分~午後2時~
 内容 オープンキャンパス
 日時 8月20日(土) 午前10時~
 内容 個別相談会
 申込み ☎046(223)1441
 詳細は<https://bit.ly/30aLjr1> またはQRコードをご覧ください。

■横浜YMCAスポーツ専門学校

日時 8月3日(水)・*15日(月)・*16日(火)・27日(土) *午前10時~正午/午後2時~4時
 内容 学校・入試説明会
 申込み ☎045(864)4990
 詳細は<https://bit.ly/3k50tkH> またはQRコードをご覧ください。

AIDS文化フォーラムin横浜 タイにおける性教育

横浜YMCAでは、タイ・バンコクYMCAと協働して、子どもの自立・教育支援を行っています。HIV感染やエイズ孤児に対する差別や偏見をなくし、地域で共に暮らすために、さまざまな取り組みを行ってきました。そのうちのひとつである性教育についてご紹介します。
■タイにおける性教育~子どもの権利の視点から~
 日時 8月7日(日) 午前10時~10時50分
 会場 オンライン (Zoom)
 申込みは<https://bit.ly/3IAvLe7> またはQRコードをご覧ください。

タイ子どもの自立・教育支援 プロテクト・ア・チャイルド

36,000円のご協力でタイの一人の子どもの1年間の教育費となります。また、タイ・パヤオセンターの子どもたちが職業訓練として作成している「バオクラフト」の売り上げで子どもたちの生活費をサポートすることができずす。募金受付の詳細はQRコードまたは<https://bit.ly/3z36beg>をご覧ください。



モタンカ人形づくり ワークショップ開催

横浜YMCAでは、ウクライナからの大学生アリナ・ホドスさんが「美しいウクライナの景色や文化を知ってほしい」と6月から7月に横浜中央YMCAやYMCA青山学院横浜英和小学校のアフタースクールで伝統的な「モタンカ人形」を作り、子どもたちとウクライナに思いを寄せました。
■ウクライナ支援募金(第2次募金期間: 8月31日まで)
 日本YMCA同盟・ヨーロッパYMCA同盟・ウクライナYMCAとの連携による避難民支援



は6月15日現在、57組130人の支援につながっています。横浜YMCAでは継続してこの活動のための支援募金を受け付けています。不安の中にいる人びとが少しでも安心して過ごせるよう協力を呼びかけています。詳細は<https://bit.ly/3sKNfxy> または、QRコードよりご覧ください。問合せ 国際・地域事業 ☎045(662)3721

ウイルス感染防止対策の取り組み

安心して施設をご利用いただくため、日常的な消毒清掃、扉や窓の開放等の感染予防対策を行っています。



「ミャンマーボランティアの旅」に参加した高倉 茂実さんのインタビュー。ミャンマーでの活動が誰かの役に立っているという実感を持ち、同時に日本での歯科治療にも充実感を持つようになった。ミャンマーでの多くの体験により、医療にはキリスト教精神に基づく考え方が大切であることが理解でき、また、人と人との交流の重要性もよく分かった。

「ミャンマーボランティアの旅」に参加した高倉 茂実さんのインタビュー。ミャンマーでの活動が誰かの役に立っているという実感を感じ、同時に日本での歯科治療にも充実感を持つようになった。ミャンマーでの多くの体験により、医療にはキリスト教精神に基づく考え方が大切であることが理解でき、また、人と人との交流の重要性もよく分かった。

高倉 茂実さん、5月の会員総会にて「奉仕の書」をいただきました。心より感謝を申し上げます。

私がYMCAに関わるきっかけになったことは、今から30年ほど前に、私の妻が横浜中央YMCAで英会話教室に通っており、その国際情勢問題をとり上げた授業内容をよく私に話してくれました。その後、私も英会話や国際問題に興味を持つようになり、仕事帰りにYMCAの英会話教室に通うことになりました。

2000年に、YMCA ACT(以下、ACT)に運営委員会が発足した時点で私は運営委員長を依頼され、それを受けました。これまでのYMCAでの活動経験でACTの活動は運営委員とスタッフが同一目線で、また全員参加型の運営がふさわしいのではないかと考え、ACT運営委員会の進行においては議長として、委員とスタッフ全員の意見を聞き進めてきました。ACTでは小さいながらも若い人たちに「語り」があり「集い」があり「活動」があり、他のYMCAには見られない特徴がありました。「百聞は一見に如かず、百見は一体験に如かず。」多くの若い人たちがYMCAの活動を通し、多くの体験をし、自分が誰かの役に立っているという実感を感じてほしいと心から願っています。

My Y Story

151

語り・集い・活動を通して同じ方向を向き取り組む価値を共有

YMCA ACT 元運営委員長

高倉 茂実



▲1996年から10回参加したミャンマーボランティアの旅(最後列中央 2008年12月)